2006 年 10 月 8 日（日）

梯剛之ピアノリサイタル

モーツァルト生誕 250 周年記念フィリア･ハイムコンツェルトシリーズ 2006 の梯剛之ピアノ・リサイタルを青葉台のフィリアホールで聴いた。

曲目は次のとおりである。

① サルティの歌劇「二人が争えば三人目が得をする」のミンゴーネのアリア「子羊のごとく」による 8 つの変奏曲イ長調 K.460（454a）

② ロンド　イ短調 K.511

③ ピアノ・ソナタ第 14 番ハ短調 K.457

④ ピアノ・ソナタ第 12 番ヘ長調 K.332（330k）

⑤ ピアノ・ソナタ第 17 番ニ長調 K.576

音の繊細さと響きの美しさ、さらに、人間の感情と共に、自然の音に耳を傾け、その表情を音で表そうとする独自の演奏に心をうたれた。彼は生後 1 ヶ月で失明し、4 歳からピアノをはじめ、盲目によるハンディーを克服し、今日までに世界各国での入賞を経験するまでになった偉業に頭が下がる。

盲目故にステージのピアノのところまで、エスコートの女性に誘導され、各曲の演奏の後にはエスコートの女性の誘導で、聴衆の拍手に答えて中央、左、右へと丁重にお辞儀するところまで、普通の演奏家をまったく変わりなかった。

拍手に答えて、アンコールを 3 曲演奏してくれて感謝の気持ちでいっぱいであった。

青葉区へ引っ越してまだ間もないがこのような機会にめぐり合えてラッキーであった。

蛇足であるがフィリアホールについてパンフレットから以下に引用する。

☆☆☆

フィリアホールについて

本格的な音響効果を備えたシユーボックス型

1993 年春、青葉台駅前に誕生したフィリアホール。フィリアとは　「友愛、友好関係、愛着」を表すギリシャ語で、″フィルハーモニー″にもちなんでいます。ここは半官半民という全国的にも珍しいホール。東京急行電鉄の多摩田園都市開発 30 周年記念事業として企画され、横浜市の「一区一館構想」と結びつき、こうした形となりました。

このホールはクラシック専用のコンサートホールで、客席は 500 席。室内楽、特に弦楽四重奏に適しています。シユーボックス型という室形のため、どの客席にも無駄なく均等な反射音が到達。音に包まれた感じを受けるのが特長と言えます。

一番人気は、ホールの特性を活かした弦楽器のコンサート。4 歳以上から鑑賞できる「フ

ァミリー・コンサート」や、月１回開催される女性アーティストによる「女神（ミューズ）との出逢い」もファンが多いそうです。実は、ヴァイオリニストの千住真理子さんは地元の青葉台出身で、初めてストラデイバリウスを鳴らされたのが、このフィリアホールだったとか。

この秋、客席と舞台との一体感を味わえるフィリアホールで、存分にクラシックを楽しんでみてはいかがでしょうか。